

入学直後の良いスタートを支援する ～つまずきを防止するために～

第6分科会 チーム ハッスル・キャッスル

1. 課題の共有

私たちのチームでは、まずメンバーが所属する各大学の学生について情報交換を行い、2つの大きな共通点を認識した。1つ目は何事に対しても受け身の姿勢でいる学生が増えていること、2つ目は人間関係の構築がうまくできない学生が増えていることである。特に2つ目については、入学直後の友達作りに失敗し孤立する学生が増えているという認識がメンバー間で一致した。そして、各大学でこの学生たちをサポートしきれていないことが具体的な問題として挙げられた。例えば受け身の学生の友人関係構築の機会が少ないこと、学生自身と連絡が取れない（電話をしても繋がらない、留守電にメッセージを残したりメールを送ったりしても返事がない）ため、学生が抱える問題を把握しにくいことの他に、学生のモチベーションを高める働きかけができていないという内容も挙げられた。

2. 理想像（ビジョン）

以上のような共通認識や課題について解決策を考えたとき、私たちのチームでは大学入学前から直後の期間が学生にとって重要なポイントになると考えた。そこで入学直後の学生への理想として「学びや人間関係構築に自発的に取り組み、大学生活を楽しむために良いスタートをきらせる」ことを掲げた。

3. 実現案の検討

実現案その1：新生を支援するコミュニティツールを導入

リアルとバーチャルをバランスよく利用した多面的な学生支援が可能である。リアルでは先輩学生による支援チームが特定の場所に常駐し、学生が不安や悩みをいつでも気軽に相談できるようにしておく一方、バーチャル側では学内向けの閉じた SNS を開設することで、リアルでは直接窓口にいけない学生にも対応するというものである。また、支援チームのスタッフだけでなく参加者同士の支援やコミュニケーションの広がりにも期待が持てる。なお、SNS には教職員もバックアップという形で参加し、学生スタッフには答えにくい質問や悩みが投稿された際にも対応できるようにすること、個人情報管理などの観点から運用管理は職員等が行うこと、言葉遣いや学生への対応方法など支援チームスタッフへの研修を行い、事故やトラブルを未然に防ぐ必要があることについてチームの意見が一致した。

実現案の目標と評価方法

- ① 「ありがとうボタン」の設置によるポジティブ評価の収集である。これは、SNS に記入された質問や回答で「自分もそれが知りたかった」といった内容のものに対して学生が「ありがとうボタン」を押すことによって、ツール利用者の積極的な評価を集めるものである。
- ② アンケートの実施である。ツールに対するネガティブな評価やツールを利用しなかった人の声を吸い上げ、運用に活かしていくための評価方法である。

相互評価

この実現案に関し、他チームからは次のような意見が寄せられた。支援チームとして学生をサポートする学生には、極端な例で言えば単位など、何かしらのインセンティブがあった方が良いのではというものである。この提案に対しチームでは、図書券や大学生協で使える商品券等の贈呈、慰労会の実施などを日頃の勤務に対する謝礼とし、学生の参加・支援意欲を刺激していくのが良いのではないかと考えている。また、「リアルでの交流」を重視した取り組みとして学生も教職員も参加できる情報交歓会等を開催し、決められたテーマについて先輩学生から後輩学生へとレク

チャールを行う場とし、その場での学びを単位化することで学生の意欲を向上させるという案もある。この案では、コミュニティツール上で情報交歓会の開催等を周知し、バーチャルでリアルを補完することを想定している。

実現案その2：学びのポートフォリオ管理システム

1つのシステムで立場によって閲覧可能な情報を変えることが有効であると意見があった。教職員からは必要に応じて学生の学習・成績や相談の記録、学生からは学習履歴やサークル活動などの取り組みの記録について書き込みや閲覧ができるようにすることで、どの立場からも必要な情報が得られるツールとして役に立つものと考えた。また、ポートフォリオで蓄積したデータは将来的にマイニング処理し、学生の傾向や過去の相談に対する対応・解決策についてのパターン管理が行える可能性に注目した。ただしこのシステムは個人情報の塊となるため、情報閲覧が可能な立場やその範囲などについては十分な注意が必要であることはチーム内で意見が一致した。

実現案の目標と評価方法

- ① 「出欠フォロー管理の自動化」で、学生の講義出席記録で初回欠席あるいは欠席が複数回続くと教職員の担当者に自動で通知を送る仕組みにしておき、対象の学生への声かけなどの働きかけができる状態を整える。この声かけを通じてその後の欠席数の変化の有無等で評価を行うものとした。
- ② 「相談先の種別と回数管理」として、学生が教職員に相談を行った際、自発的な相談として記録を行いデータの蓄積を行うことにより、同じ窓口に何度も顔を出している学生のほか、どこにも相談に行っていない学生についても検知可能とすることを目標とした。どこにも相談に行っていない学生の中で、本当に何の問題もない学生と、相談したくてもできない学生の判別を行い、この数を評価する。
- ③ 「コミュニティツール」と「ポートフォリオ管理システム」をリンクさせることによる学生の成長検知である。コミュニティツール側の「ありがとうボタン」の獲得数を計測し、ポートフォリオ側でその獲得数が記録されるようにしておくことで対象の学生が自発的に他の学生に手を差し伸べているかを確認できるようにする。これにより、過去にサポートを受けていた新入生が進級した時に新入生に同様のサポートを行う側になっているかを計測し、学生の成長の度合いをシステムの評価とするものである。

相互評価

この実現案に関しては、学生への学習履歴の見せ方について具体化した方が良いという意見があった。この意見に対し、チームではただ「単位修得した科目」「履修中の科目」などを見せるだけではなく、各回の講義に関する学生自身のメモや担当教員からのコメント、課外講座や課外活動・ボランティアへの参加記録、留学等についても種類や時系列で整理・集約された情報が見られるような仕組みにすることで、振り返りの材料としてより貴重で有益なシステムにすることができるのではないかと考えている。

4. まとめ

私たちのチームでは理想像を達成するにあたり、入学前から入学後までを7段階に分けて議論を進めた。時系列順に様々な課題を話し合う中で、SNSやポートフォリオシステムは複数の時系列にわたって利用でき、また効果が見込めるものと考えた。他班の発表を聞いて考えるべき点も多かったが、多くの大学で問題と認識している学生像に向けて理想像を設定し、解決のための方策について話し合えたことは大変有意義であった。

以上

チーム ハッスル・キャスル メンバー

札幌学院大学	伊原珠希	東京薬科大学	石崎 琢也	愛知大学	藤井 雄一郎
京都産業大学	岡 和寛	熊本学園大学	野田 美喜子	シスコシステムズ	櫻井 豊